

放射線治療科

I 経験、習得すべき事項

- 1) がん診療における以下の基本事項について理解する
 - * がん診療における EBM の実践法
 - * がん治療の 3 本柱（外科療法、放射線療法、薬物療法）の特徴と適応
 - * 緩和治療の意義と手法
 - * がん診療における多職種チーム医療の役割
 - * 担癌患者に対するコミュニケーション技術
- 2) オピオイドの使用など、癌性疼痛のマネージメントを実践する
- 3) 骨転移・脳転移などに対する緩和的放射線治療の適応判断を行える
- 4) 放射線治療中患者の急性反応のマネージメントを適切に行える

II 頻度の高い疾患

頭頸部がん	食道がん	肺がん	乳がん	骨転移	脳転移
-------	------	-----	-----	-----	-----

III 当診療科における研修の特徴

放射線治療科病床を保有しており、担当医としてベッドサイド診療を実践する。

たとえば、進行期、患者の癌性疼痛の対処、とくにオピオイドの使用について経験を積むことができる。また、ターミナル症例のお看取りをすることも多く、緩和医療についての知識、技術が習得できる。頭頸部がんや食道がんについては化学療法も実施しており、有害事象対策も学ぶことができる。

領域にかかわらず、がんに関わる診療科に進む研修医にとって、多くの知識や経験を体得できる研修を提供している。